

返く、そこもと三なく御そく才
のよし、何よりくまんぞく

申まいらせ候。ひとひも文こし

一筆申入まいらせ候。

まいらせ候。さだめて相とゞき候八んと

まづく相替事

おし計まいらせ候。いかゞ。さび敷

これなく、何も御そく才

候や。きげんよくあそび申

のよし承り、よろこび

され候べく候。われら事、

まいらせ候。いよく

そく才に候まゝ、御心やすく

きげんよく候や、きかま

候べく候。大かた

ほしく存まいらせ候。

来月八日九日ごろ二は

さくらだにて、御ばゝ様、

かへり候八んかと、ぞんじまいらせ候

喜平次どの、御きげん

おあぐり、きぶんよく候べく

よき返り、数く

存まいらせ候。かしく

御嬉しくぞんじ

まいらせ候。わが身事、

ぶじにて、御用相

つとめまいらせ候。こんど八
人いで入おゝく、
中くひまこれなく、
いそがわしさを、御すもじ
候べく候。此廿七八日
の内、御いとまにて
候八んよし、御さたにて候まゝ、
首尾よく相つとめ、
仕合よく、やがてく
帰候て、申承べく候。
さては、此はながみぶくろの
きれ、かうづゝみ、御所むき
のよし二候まゝ、こし
まいらせ候。なぐさみに
めさるべく候。おあぐりへも、
小人ぎやう三、越まいらせ候。
御心得候て、御とゞけ給べく候。
何事もくかさねて
申入まいらせ候。

めでたくかしく

九ノ

廿五日

おつる殿 上野介

まゐる